

千葉療護センターにおけるリハビリに対する意識調査

○横山 敬人¹、宮崎 美保¹、船倉 美香¹、小林 球記¹、小瀧 勝²、内野 福生²

¹自動車事故対策機構 千葉療護センター リハビリテーション科、

²自動車事故対策機構 千葉療護センター 脳神経外科

【はじめに】千葉療護センターに入院中の患者の家族・看護師を対象にアンケートを実施し、その結果を検討・考察した。

【目的】平成21年度よりリハビリ職員が増員され、各患者のリハビリ頻度が増加した。そのため、新たなリハビリアプローチや他職種との連携について考え、より質の高いリハビリを実践する必要がある。そこで、家族・看護師のリハビリに対する満足度等について現状を把握するため、今回アンケートを実施した。

【対象】平成25年2月1日時点の入院患者63名の家族と当センター所属看護師93名。家族は一家庭一部とした。

【方法】匿名式アンケートを独自に作成し家族、看護師へ配布した。アンケート内容はリハビリの必要性やスタッフに対する満足度等について選択式、自由記載欄を設けた。家族にはリハビリ頻度についての質問も加えた。

【結果】回収率は家族79.3%、看護師94.6%であった。リハビリの必要性は家族96%、看護師77%が「必要」、リハビリによる効果は家族88%、看護師87%が「ある」「ややある」と回答した。スタッフに対する満足度は「知識面」「技術面」「対応面」に関して家族は86～90%、看護師は39～41%が「満足」「やや満足」、リハビリ頻度に関しては68%の家族が「少ない」「やや少ない」と回答した。

【考察】リハビリの必要性や効果を感じている家族や看護師は多く、リハビリに対する期待は強かった。しかし、家族のリハビリ頻度への満足度、看護師のスタッフへの満足度は十分とは言えない。この結果をリハビリスタッフ内で再考し、今後患者に対するリハビリの更なる質の向上に努めたい。